

令和4年度 学校教育自己診断 集計結果分析

大阪府立三国丘高等学校 学校教育自己診断委員会

回答の分析に際しては、[1]生徒、[2]保護者のアンケート結果について A.肯定的意見の割合が 85%を超えるもの、B 否定的意見の割合が 25%を超えるもの、C 経年変化の大きかったものの 3 区分で行い、[3]教職員のアンケート結果については経年変化から分析した。さらに[1]～[3]で取り上げなかったものを[4]その他としてまとめた。

全体としては、肯定的意見が概ね 70%～80%前後以上で推移している。今後も現状維持で満足するのではなく、工夫や再考を重ね、継続・発展させていく必要があると考えられる。

[1]生徒 回答数：1年 305 (95.0%) 2年 277 (87.7%) 3年 277 (88.2%) 計 863 (90.1%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が 85%以上）

		肯定	否定
1	学校生活は楽しく、入学して良かった。	91.9%	5.3%
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	92.4%	5.1%
6	学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある。	86.1%	10.3%
11	文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している。	94.7%	4.1%
18	プロジェクト等の映像機器を活用した授業は効果的である。	90.7%	7.1%
19	三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	86.4%	7.5%
23	学校はGoogle Workspace(classroom などのアプリ群) やchromebookなどのICTを活用している。	88.6%	9.9%

【分析】

上記 7 項目のうち、1、5、6、11、18 の 5 項目は、例年高い水準を保っている。19 と 23 に関しては、経年変化を見ると下表のようになっている。

		肯定的意見				
		H30	R1	R2	R3	R4
19	三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	71.1%	79.9%	77.0%	80.7%	86.4%
23	学校はGoogle Workspace(classroom などのアプリ群) やchromebookなどのICTを活用している。	—	—	—	89.0%	88.6%

19 に関しては、昨年よりも肯定的意見が約 5%増加し、85%以上となり過去最も高い水準となった。これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止していた大学のオープンキャンパスイベントや研究室訪問などが再開されたためと考えられる。

23 は昨年度からの質問であるが、昨年に引き続き肯定的意見が 9 割近くになっている。校内の ICT 環境が整備され、Chromebook が一人一台配布されて活用されているためだと考えられる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が 25%以上）

		肯定的意見					否定的意見				
		H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4
8	大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をしてほしい。	67.5%	66.9%	63.4%	66.9%	64.9%	20.1%	22.0%	23.0%	21.0%	26.9%
9	大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力をいれてほしい。	42.9%	49.4%	49.0%	50.7%	51.2%	43.2%	39.3%	38.3%	36.4%	39.2%
10	人権、環境、福祉について学習する機会がある。	66.0%	86.7%	84.0%	79.2%	62.9%	25.6%	10.1%	11.5%	16.0%	29.7%
20	土曜授業は、学習時間の確保に役立っている(1・2年)又は役立った(3年)。	35.8%	43.8%	52.2%	52.3%	45.2%	53.7%	46.8%	36.0%	37.0%	44.1%

【分析】

上記の 4 項目のうち、8 と 9 は否定的意見が 25%を上回った。肯定的意見については例年と傾向は変わらず 8 は約 65%、9 は約 51%であることから、大学受験に必要な勉強も、大学受験にとらわれない学習活動も、どちらもニーズがあると言える。

10 については、昨年と比較すると肯定的意見が約 7%減少し、否定的意見が約 14%増加した。これは、昨年度はアンケート実施日より前に人権 HR が実施されたが、今年度は人権 HR がこのアンケートより後に実施されたことが大きく影響したと考えられる。

20 の土曜授業については、昨年に比べると肯定的意見が約 7%減少し、否定的意見が約 7%増加した。新型コロナウイルス感染症拡大による影響がだんだんと薄まり、部活動や学校行事が通常の状態に戻りだしたことから、アンケート結果もコロナ禍前の状態に戻りつつあるのではないかと考えられる。

C 経年変化の大きかったもの

		肯定的意見					否定的意見				
		H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4
12	学校は、生徒の健康管理や、健康指導を適切に行っている。	78.1%	78.6%	76.0%	77.9%	73.5%	13.1%	12.5%	15.8%	15.3%	20.0%

【分析】

12 は、肯定的意見が約 5%台減少し、否定的意見が約 5%増加した。3 学年の否定的意見の内訳を調べてみると、3 年生 17.2%、2 年生 13.3%、1 年生 24.0%と 1 年生がかなり高いことがわかった。1 年生は中学 2 年生のはじめに新型コロナウイルス感染症拡大が起こり、中学校ではほぼ 2 年間、毎日の検温等かなり厳しく体調管理がおこなわれた。高校入学時にほぼ通常の学校生活を送ることになり、指導の機会が少なくなったことからこのような結果になったのではないかと考える。

【2】保護者 回答数：1 年 221(68.8%) 2 年 171(54.1%) 3 年 173(55.1%) 計 565(59.4%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が 85%以上）

		肯定	否定
1	お子様にとって、学校生活は楽しく、入学させて良かった。	91.5%	4.8%
2	本校の自主自立(自律)を尊重する伝統は、よく活かされている。	87.6%	5.5%
11	文化祭や、体育祭、部活動等において、生徒の自主性が発揮されている。	91.2%	4.2%
26	学校はGoogle Workspace(classroom などのアプリ群) やchromebookなどのICTを活用している。	94.3%	5.7%

【分析】

1、2、11、関しては、昨年と同じく 85%以上となり、保護者の方々が、文武両道、自主自立、切磋琢磨を掲げる本校の教育方針を理解し、賛同してくださっていると思われる。

昨年度新たに設けた 26 が引き続き 85%を超える肯定的意見を得た。26 に関しては、生徒への連絡事項等について classroom を積極的に活用しているとともに、Chromebook の迅速な配布・授業内外での使用等によって ICT を効果的に活用していることが評価されたと思われる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が 25%以上）

		肯定	否定
6	大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をするべきだ。	48.5%	28.1%
7	大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。	48.5%	34.2%

【分析】

6、7 に関しては、毎年、肯定的意見と否定的意見がどちらも高く、大学受験に必要な科目は大切であるが、同時に受験にとらわれず、広く教養も身につけることも大切であるという保護者の意見が反映されている。本校は、学校設定科目 Creative Solutions における探究活動（SSH、SGH 含む）、授業以外では部活動、生徒会活動など様々な活動が行われており、進路実現のための勉強とその他の学びのバランスをとりながら学校生活を送ることができるようなカリキュラム体制を組み、ニーズに応えている。

C 経年変化の大きかったもの

		R3	R4
22	授業参観や学校行事に参加したことがある。	37.9%	67.6%

【分析】

22 に関しては肯定的意見が大幅に増加した。授業公開・文化祭・体育祭等、保護者の来校の機会が昨年度と比較して増加したことが要因と考えられる。

[3]教職員 回答数：32 (54.2%)

経年変化の大きかったもの

		肯定的意見	
		R3	R4
8	いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応できている。	79.4%	96.3%
9	学校では、生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。	85.3%	77.8%
16	学校では、要配慮生徒への支援が適切に行われている。	91.2%	77.8%
17	学校では、より良い学級経営のために、学年等での協力体制が整っている。	82.4%	85.2%
18	プロジェクタやICT機器を活用した授業は効果的である。	85.3%	96.3%
19	土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。	14.7%	37.0%
20	学校経営に、校長のリーダーシップが発揮されている。	61.8%	96.3%
22	学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある。	67.6%	88.9%
25	学校では、教職員の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	73.5%	88.9%
31	私は、管理職が教育活動に必要な情報を積極的に収集し、教職員への情報提供に努めていると思う。	73.5%	100.0%
35	学校では、施設・設備について、適切に点検や管理が行われている。	76.5%	92.6%

【分析】

ここでは、昨年度と比較して大きく数値が変化した項目の中でも、特に最近 4 年間の水準と比べても変化が大きい項目に注目した（否定的意見は大きな経年変化は見られなかったので、肯定的意見のみ記載）。

8、9、16 を見ると、（疑いを含む）いじめ問題の対応については肯定的意見の数値が伸びているが、要配慮生徒への支援かつ問題行動が起きた時の適切な対応についての肯定的意見の数値が下がっている。近年、様々な配慮が必要な生徒が増えており、以前には見られなかったような問題が起きることもあった。対応を必要とする生徒とその行動の幅が広がっているという認識を持ちながら指導及び支援に取り組んでいく必要があるだろう。

20、22、25、31 の数値が高いことに関しては、教職員相互及び教職員と管理職との意思疎通が十分に行われていることの表れであると考えられる。

35 については、近年の Wi-Fi 環境の整備やトイレの改修工事などによって良くなっている教育環境が適切に維持されていることを反映していると思われる。

[4]その他

①進路指導に関する事項

		肯定的意見				
		H30	R1	R2	R3	R4
<生徒回答>						
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	88.3%	89.1%	85.4%	91.6%	92.4%

【分析】

進路に関する項目は例年高い数値で推移しているが、今年度はさらに肯定的意見が 92.4%に上った。卒業生の体験談を聞く交流会や京大キャンパスガイド、阪大ツアーの開催など、自らの進路について考える機会も通常通りとなり、本校独自の阪大医学部体験や京大工学部および理学部訪問も含めて、生徒たちは積極的に参加していた。今後とも情報を積極的に収集し、生徒の志望する進路の実現をめざして引き続き努めるとともに、生徒が主体的に自らの進路を選択していけるよう、情報過多や生徒が受身の姿勢とならないよう留意し、指導を行う。

②授業に関する事項

<生徒回答>		肯定的意見				
		H30	R1	R2	R3	R4
7	満足できる授業が多い。	75.8%	76.6%	77.6%	83.2%	77.1%

【分析】

授業に対する生徒の肯定的な意見が昨年初めて 80%代を越えたが、今年度は少し下がり例年と同じような値となった。進路実現を可能にする確かな学力を育むとともに、主体的な学びが促進されるよう、教科内あるいは教科間も連携していく。また、近年教員の入れ替わりも多いことから、三丘生が期待する高い質の授業を継続するべく務めていく。

③施設設備に関する事項ならびに災害対策などに関する事項

<教職員回答>		肯定的意見				
		H30	R1	R2	R3	R4
26	学校では、事故・事件・災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	65.8%	52.8%	75.0%	79.4%	92.6%

【分析】

肯定的意見が 92.6%に増加した。本校では防災意識を高く持ち、令和 2 年度に防災対策プロジェクトチームが作成したマニュアルをもとに、災害発生時に迅速かつ適切な対処ができるよう、避難訓練の際には教職員で役割分担を確認して訓練を重ねている。また、防災研修を実施し、学校が避難場所になった際に必要なノウハウも学んでいる。今年度は地域の自治会とコンタクトを取り、非常時には協力しあいながら避難所を運営する等、打ち合わせをおこなった。このような取組みが肯定的意見の増加につながったと思われる。今後も、訓練ならびに設備管理を怠らずに持続していきたい。

また、生徒のロッカーが小さいというご意見が寄せられることが多いが、現状では下足室を拡張するスペースや生徒の荷物置き場に充てられる場所の確保が、消防法の観点から困難な状況となっている。何か良いアイデアがないか、引き続き経営委員会等で検討していく。

④スマートフォンの使用に関する事項

<生徒回答>

24	1日にスマートフォンを勉強以外で使用している時間は平均してどれくらいですか	R3	R4
	2時間以上3時間未満	25.0%	27.0%
	3時間以上4時間未満	13.5%	14.5%
	4時間以上	13.8%	20.2%

【分析】

生徒の携帯電話の使用時間については、昨年よりさらに長時間携帯電話を使用している生徒が増え、4時間以上使用している生徒が5人に1人の割合となった。保護者の「29 お子様のスマートフォン使用について、時間制限をされていますか。」の回答では、「していない」が約 84.4%となっていることから、生徒の自主性に任せているご家庭が多いといえる。生活習慣や、学習時間にも関わるので、ご家庭と情報交換しながら、成績などとも関連させ、適切に生徒に注意を促していく必要があると考えられる。